

第1学年

がっこうをたんけんしよう ～とびだせ がっこう たんけんたい～

「気になる」「行ってみたい」から始まった学校探検

入学してから学校生活にも慣れ、学校について気になる場所や、まだ行ったことがない場所があることに気付いた。「学校についてもっと知りたい、探検してみたい」という思いから、単元を立ち上げた。

グループで行きたい場所へ学校探検

少人数のグループで気になる場所や行ってみたい場所へ思い思いに探検した。その中で、廊下を走ったり、騒いだりして先生から注意を受ける場面もあった。他にも、子供たちが職員室に鍵を借りるなど、体験を通して学校生活のルールについて学んでいった。



一人一人が見付けたことを学級の友達に紹介

探検の際に各自の端末で気に入ったものを撮影しており、児童から「写真を見せたい」という声が上がった。それを受け、写真を見せながら自分の発見を紹介し合うことで、新たな気付きを共有した。鍵がかかって入れなかった場所など、困ったことも共有し、解決方法を考えて次の探検へとつなげていった。

気付きをクイズにして全校へ発信

2回目の学校探検の後、「自分たちの発見を全校の皆に伝えたい」という声が上がった。そこで、お昼の放送で学校のクイズを出題することになった。お互いにクイズの内容を評価し合っ、より面白く、分かりやすいクイズになるように工夫と改善を重ねた。



お昼の放送でクイズを出題

改善したクイズをお昼の放送で全校に出題した。上級生から「知らなかった」「面白かった」という声をかけてもらい嬉しさを感じる一方、「簡単だったね」という声もあり悔しい気持ちも感じた。「次はもっと難しいクイズを出すぞ!」と新たな課題を見付け、挑戦する気持ちを高めながら、次の学びへとつなげていった。

これは、どこにあるでしょう。



この、がっきのなまえはなんでしょう。



第6学年

吉名町の歴史を調べて伝えよう ～歴史秘話探索プロジェクト～

吉名の今と昔を知ったことから、単元の課題を設定

地域の神社の宮司さんから、昔の吉名町について教えてもらった。今と昔を比較してみると、現在の吉名町は人口が減り、かつてのような賑わいがなくなっていることが分かった。このまま人口が減り、自分たちの育った故郷が無くなるのは嫌だ。悲しむ人もたくさんいる。そこで、「吉名町の歴史や魅力を伝えて、行ってみたいと思える吉名町にしたい」という願いをもって単元を立ち上げた。



バスをどうしよう? 交渉への挑戦

目的を達成するための方法を話し合った結果、地域の歴史を実際に訪れて学ぶ「バスツアー」を行うことに決めた。しかし、バスをどう確保するかという大きな壁にぶつかった。情報収集を進める中で地域のゴルフ場がバスを所有していることを知り、貸してもらうために交渉することにした。相手の心を動かすにはどうしたらよいか考え、プレゼンテーションの内容も自分たちの思いと、相手にとってのメリットを整理しながら吟味した。交渉の結果、見事バスを借りることに成功した。

歴史バスツアーに向けて準備

歴史バスツアーの実施に向けて、チラシ作りやガイド原稿の作成、事業所との連携など準備を進めた。ガイドの仕方についても、忠海町で実際に地域ガイドを行っている方から助言をいただいたほか、先生方や学校運営協議会の方にガイドを聞いていただき、助言を受けた。さらに、実際の見学地でリハーサルを重ね、自己評価や他者評価を取り入れながら、より良いガイドへと磨きをかけていった。



歴史バスツアー本番

当日は、地域の参加者24名を迎え、児童の笑顔が広がる時間となった。緊張しながらも、参加者の温かい反応により「伝えたい」「知ってほしい」という気持ちが高まり、相手意識をもってガイドを行うことができた。また、4年生もツアーのプログラムの一部として「じゃがいもクイズ」を担当し、異学年の協働が実現した。参加者からは「吉名町のことがさらに好きになった」「お値段以上の価値があった」などの声をいただき、地域と協働して活動をやり遂げた児童の表情には、大きな達成感と自信があふれていた。



第9学年

自分たちの力で吉名町を盛り上げよう ～吉名未来創造プロジェクト～

保護者の方の思いを踏まえながら、自分たちで課題を設定

竹原市が消滅可能性自治体と報道されたことや、保護者へのインタビューで明らかになった地域の現状と課題を踏まえながら、「自分たちの力で吉名町を盛り上げたい」という思いが生まれ、自分たちでアイデアを出し合い、祭りの企画と、清掃ボランティア活動を行うことを決め、単元を立ち上げた。

学校運営協議会へプレゼンテーション

祭りの開催に向けて、地域の方の協力を得るために学校運営協議会の皆様にプレゼンテーションを行った。しかし計画の甘さや具体性の不足を指摘されてしまう。一方、「昔の祭りが無くなって寂しい」「頑張ってる」という温かい励ましもいただき、委員の方からの助言を基に、計画の見直しと改善を図ることとなった。



1月のイベントに向けて再挑戦

後日、竹原市観光協会事業委員会の方から、「吉名町を盛り上げるために、9年生の皆さんと共にイベントを創っていききたい」という依頼が舞い込んだ。自分たちの思いと重なる提案に大きな喜びを感じ、観光協会の方と共に同じ目標に向けて、協働しながら活動を進めていくこととなった。



観光協会の方と共にイベントの企画・準備

イベント運営に必要なと考えた5つのグループに分かれ、それぞれが観光協会の方から助言をいただきながら準備を進めた。例えば、会場レイアウトの考案、ステージ出演者や飲食店に電話で依頼、吉名の歴史や文化を紹介するブースの企画、竹でっぽう等で遊べる体験ブースの企画等を進めていった。さらに、地域のレンガ工場のレンガを使ったピザ窯で作るセレクトピザも地域のピザ屋さんの方に助言をいただきながら準備を進めていった。



吉名フェスティバル当日

迎えた当日、吉名町の人口を超える約3000人の方が来場し、まさに町全体を巻き込む1日となった。地域のレンガ工場のレンガを使ったセレクトピザは開始一時間半で完売し、各ブースにもたくさんの方に来ていただいた。観光協会の方と協働しながら吉名町の魅力を発信し、地域の方々と大きなプロジェクトをやり遂げ、大きな達成感を得ることができた。「これから色々なことにチャレンジしていきたい」や「今よりもっと吉名を盛り上げたい」とさらなる挑戦や自分の将来を描く姿が見られた。



子供の探究を生み出す単元づくりの五つのポイント

思いや願いに基づく挑戦

児童生徒の思いや願いを基にプロジェクトを立ち上げる。思いや願いに沿って思い切った活動・挑戦ができるように、教師の支援は必要最小限とする。

巻き込む活動

実生活・実社会の課題を解決するには、大人との協働が不可欠である。子供主導の活動に大人や地域を巻き込むことで、より「本物」の探究に近づく。

高い壁との出会い

活動を進めていく過程で出合う高い壁(失敗・困難)を取り除かず、意図的に出合わせ、解決に向けて試行錯誤する場を設ける。

本物からの学び

実際に取り組んでいる人、一流の人から学ぶことで、学びを充実させることができることにも、その方の生き方に触れることで、児童生徒がよりよい生き方を考えることにつながる。

再挑戦の場の設定

失敗を失敗のままで終わらせるのではなく、再挑戦の場を与えることで、困難や苦労を乗り越えた先に得られる達成感・満足感を味わわせ、自信をもたせる。

系統的に育成を目指す資質・能力の設定

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう人間性等
ア 知識 イ 技能 (主としてICT活用力) ウ 探究的な学習のよさの理解	エ 課題を発見する力・企画する力 オ 活動を計画・推進する力 カ 情報を収集する力 キ 整理・分析する力 ク 表現する力 (主としてプレゼンテーション力) ケ 発想する力・工夫する力 コ 評価する力	サ 挑戦する力・やり遂げる力 シ 協働する力 ス 将来を設計する力

セ 英語力

育てたい力の系統表

第1期	第2期	第3期	第4期
知識及び技能	知識及び技能	知識及び技能	知識及び技能
思考力・判断力・表現力等	思考力・判断力・表現力等	思考力・判断力・表現力等	思考力・判断力・表現力等
学びに向かう力・人間性等	学びに向かう力・人間性等	学びに向かう力・人間性等	学びに向かう力・人間性等

第1期から第4期に分け、目指す姿を具体化し、系統化を図る。

最新版はこちらから

